

「理由のない遅刻をゼロにする」の提案に早速生徒会が反応！！

群青 Vol.9 の『「理由のない遅刻をゼロにする」』として、全校挙げて遅刻防止強化月間にしてはどうだろう。」という提案に対して、早速生徒会が具体策を考えて、9月15日に私のところに来てくれた。具体的な内容は、生徒会からの呼びかけに任せるとして、何よりもすぐに対応を検討して、提案してくれたことに感動した。あとは、どのように実践して、結果を出していくかということだ。生徒会だけが頑張っても達成できるものではない。生徒の皆さんの協力が何より不可欠だ。

私からは「5ME」プロジェクトを提案する

『理由のない遅刻をゼロにする』ための一つの方法として、「5ME」プロジェクトを提案する。毎朝生徒昇降口に立っていて、気付いたことは、「あと5分家を出ていけば遅刻せずに済む生徒がほとんどだ」ということだ。5分早く学校に着くためには、5分早く家を出る。5分早く家を出るためには、5分早く支度を済ませる。5分早く支度を済ませるためには、5分早く起きる。だから、「5 minutes earlier」の頭文字で「5ME」なのだ。

明日から「5分早く目覚ましをセットする」ことを実践してみたらどうだろう。よもや高校生にもなって、誰かに起こしてもらってはいないだろう。自分で9月までにセットしていた目覚まし時計の起床時間を5分だけ早めてみる。そうすることで、行動に余裕もできる。全力疾走して息を切らして1時間目を迎えることもなくなるだろう。落ち着いて、学習に取り組むことができるようになるので、成績が上がるかもしれない…。5分早く起きるためには、少しだけ早く床に就くことも忘れないでほしい。それは、スマホを眺める時間を5分だけ短くすれば可能だ。

『漢字の気持ち』（高橋政巳、伊東ひとみ 新潮文庫）より

私の専門教科は国語だ。四半世紀あまり教壇に立ってきた。そこで、それにちなんだ話題を一つ。

先日 Amazon が提案してきた本の中に『漢字の気持ち』（高橋政巳、伊東ひとみ 新潮文庫）というものがあつた。その策略にまんまと引っかかった私は、ポチっとやってしまった。翌日届いた（早い！）ので、さっそく読んでみた。「古代漢字の書体の一つである篆書を楽しみながら表現する（中略）楽篆家」として活動されている高橋政巳氏が「悠久の時間の中で一つひとつの漢字に宿った人々の気持ちに耳を傾けるつもりで向かい合って」「その語源」を解き明かし、それを伊東ひとみ氏が文章化したものだ。「漢字は、人々の思いを背負っている」という。その中で生徒の皆さんに関心がありそうなものを紹介する。

「恋」：旧字体は「戀」と書く。「糸」と「糸」の間に「言」という文字が挟まれ、その下に「心」が配置されている。「本来の語源はというと、『言葉が糸に絡まったようになかなか出てこない、せつなくてもどかしい心』を表したもの」であり、「胸が締めつけられるようなせつない恋」「いつの時代も、人は恋に心を乱され、せつない思いに身をやつすのだ」というわけだ。

「愛」：「後ろを顧みてたたずむ人の姿」の象形文字の真ん中に「心」が組み合わさっている。「立ち去ろうとして後ろに心が惹かれる人の姿が『愛』。つまり古代の中国の人々は、その心情を『愛』として、『いとおしむ・いつくしむ』という意味で用いた」「それを日本の古代の人々は『かなし』というやまとことばを当てて、人に心を残す気持ちを『愛し（かなし）』と表現したということだ。

どちらも「せつなくてたまらない」心情をあらわした文字だという。遠い記憶の中にあつた気がする…。他にも多数の漢字が紹介してある。この本に興味がある人は、私のところまで…。

We keep on challenging. 挨拶日本一の高校を目指して 文責：姫路別所高等学校長 篠原 歩